

## 福岡県における非施業竹林の拡大について

九州大学農学部 常岡 珠江・薛 孝夫

## はじめに

近年、北部九州の低海拔の森林において、モウソウチクやマダケが針葉樹人工林や天然生二次林に侵入して混交林となった林分が目立つようになった。また、明らかに生産のための手入れがなされていないと思われるヤブ状の竹林が目立つようになった。このような「非施業竹林」の拡大は、生態遷移の面からも景観の面からも望ましくない状況を引き起こす可能性がある。

筆者らは、非施業竹林の拡大の現状を把握しそれに対処するための技術的、政策的手法を検討する作業に着手し、まず福岡県の竹林の推移と現状を農林関係の統計資料<sup>1)</sup>から確かめることとした。今回は過去30年の統計資料や既往の研究から得られる知見をまとめ、現在取り組んでいる事項の概要を述べる。

## 1. 竹林面積および竹林からの生産の推移

表-1に福岡県の竹林面積と5つの農林事務所管内毎の竹林面積の過去30年間の推移を示す。これによると県の竹林面積は昭和54年以前までは減少していたが、それ以降は増加し、平成に入ってからほぼ横這で今日に至っている。農林事務所別に見ても県全体とほぼ同様の傾向を示す。

次に森林面積に対する竹林面積の占める割合(竹林面積率)の推移を図-1に示す。タケノコの生産地を含む筑後と八幡は、森林面積にしめる竹林の面積率が高くなっている。面積率の推移は各農林事務所によって動きに微妙な差があるものの、面積の推移と同様に全体的に昭和54年以降面積率も増加しており、森林面積における竹林面積の拡大が伺える。

竹林からの生産物としては主にモウソウチク林からのタケノコや、建築用材としての竹幹がある。福岡県及び各農林事務所の竹林1haあたりのタケノコの生産量を図-2に、モウソウチクとマダケを合わせた竹材の生産量を図-3に示す。

タケノコの生産地として有名な八女地方を含む筑後

がタケノコ・竹材ともに竹林1haあたりの生産量が著しく多く、特に竹材に関しては県下の生産量の大半を筑後が占めている。その生産量の推移に着目して見ると、昭和59年以降減少しており、特に平成に入ってから減少の一途をたどっている。

## 2. 非施業竹林の拡大とその問題点

竹林の生産物であるタケノコの生産量は、昭和50年代の後半からの円高によるタケノコ缶詰の輸入増加の影響などによって減少している。<sup>2)</sup>また、昭和50年前後からの建設材料の変化の中で竹材の需要は大きく減少した。他方、竹林面積は、先に見たとおり増加しており、近年の竹林の増加分は、生産に関与しない、いわゆる非施業竹林であると考えられる。

統計上の竹林面積は竹の純林が主で、混交状態にある林分は、ある時期までは従前の人工林または広葉樹林等に計上されている可能性が高い。従って、人工林や天然林の中に侵入して混交している竹林を含めると、非施業竹林の拡大は統計資料に見られる状況より進行しているといえることができる。

針葉樹人工林への竹類の侵入は、目標とされた生産物であったスギ、ヒノキの生産性からは陽光や養分の面で明らかにマイナスであろう。また、竹類が二次林に侵入することは、土地条件に応じた自然性の高い樹林に向かう植生遷移を遅らせる要因になると思われる。

適切に管理されている整然とした竹林に比べ、手入れのされていない竹林は稈密度が高く、林内景観の面での評価は低いはずである。外部景観としても、樹冠が小さく葉色に生気を欠く場合が多く、評価は低いものと思われる。針葉樹人工林や二次林に竹類が侵入した林分の景観上の評価については調査を待たねばならないが、森林林業の専門的な知識を持つ人の評価は高くないものと予測される。

近年は都市周辺部の宅地開発がめざましく、都市生活者の居住区域の縁辺に非施業竹林が所在する状況も増えてきた。このような場所では、個人財産としての

山林という印象を与えないヤブ状の竹林で、特に外部からの見通しが良くない場合に、ゴミの不法投棄などの問題も起きている。また治安上の問題が起きることも懸念される。

### 3. 宗像市を対象とした取り組み

非施業竹林が増加していると思われる福岡県農林事務所管内の福岡県宗像市において、①航空写真による竹林拡大状況の確認、②現地確認と定点観測点の選定、③周辺住民や所有者からの聞き取りなどに着手した。

宗像市役所においては、水源の森整備事業に要する経費の一部を補助する制度を設けているが、この中で健全な森林を育成するための竹類等の伐採に対して、保安林で100%、その他で80%の補助金を出すことにしている。また、水源の森指定区域で造林事業を行う場合、竹林を改植して造林をする場合には、通常の基準事業費の135%を補助することにしている。これについてはまだ実績がないが、この制度の運用についても追跡調査を行ってきたい。

#### おわりに

放置された竹林や人工林に竹類が侵入した林分の増加は、竹林ないしは人工林の手入れを怠っていることの結果であることは明らかである。その背景には、林業のみならず多くの第一次産業が抱える輸入品との競争による生産物の価格の低下や後継者不足等、様々な要因を含んでいると思われる、その解決には多くのアプローチが想定される。その中で、構造的な問題の改善に先んじて景観行政からの施策、市民のボランティア活動としての山林管理などを検討することを提案できるが、そのためには効果的な植生管理技術が確立される必要がある。

今後、景観面、森林生態面それぞれ適切な調査を行い、健全な竹林のあり方とその管理手法について検討し、早急に実行していくことが望まれる。

#### 引用文献

- (1) 福岡県：福岡県林業統計要覧，1967~1996
- (2) 福岡県森林林業技術センター：タケノコ早出しに関する研究，福森技研資19，10~19，1995

表-1 竹林面積の推移

	福岡県	筑後	甘木	福岡	飯塚	八幡	行橋
昭和42年	12146	2905	941	2485	2682	2377	756
昭和44年	11359	2950	770	1868	2682	2377	756
昭和49年	9818	2767	604	1705	2425	1726	592
昭和54年	9650	2680	575	1757	2376	1672	590
昭和59年	10968	3356	659	1985	2654	1684	630
平成元年	11189	3404	640	1984	2740	1782	640
平成6年	11165	3448	611	1924	2760	1739	683

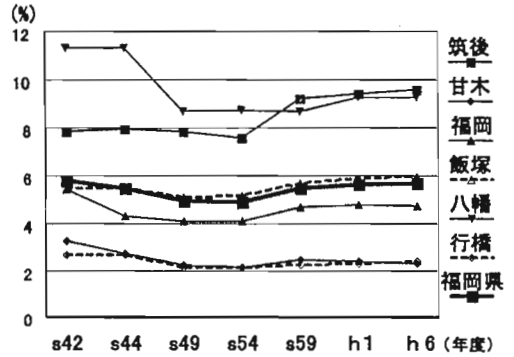


図-1 竹林面積率の推移

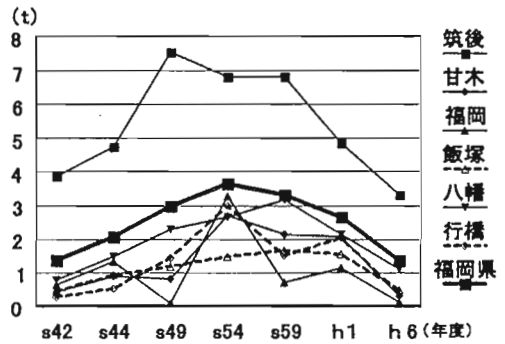


図-2 竹林1ha当たりタケノコ生産量の推移

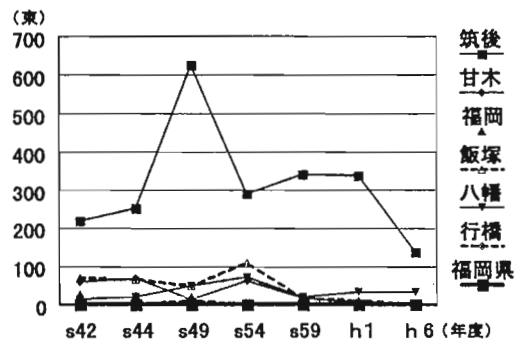


図-3 竹林1ha当たり竹材生産量の推移